

図書だより

石川県立松任高等学校図書室
平成27(2015)年1月発行

～ 水沢腹堅（沢に氷が厚く張りつめる）～

明けましておめでとうございます。新年早々、大雪に見舞われましたが、皆さんはどんなお正月を過ごしたのでしょうか。

これからますます寒さの厳しい時期を迎えます。暖かい部屋でゆったりと本の世界を楽しんでみませんか。



お正月をもっと知るオススメ本

日本の数ある年中行事のなかでも、伝統的な部分を多く残しているのがお正月ではないかと思います。図書室にあるお正月に関わる図書を紹介します。

『鳩居堂の日本のしきたり豆知識』

鳩居堂／監修

1663年から続く老舗・鳩居堂（きゅうきょどう）は、文房具やお香、和の道具などを扱っているお店です。それらの商品の成り立ちや使い方を季節の行事や日常生活に絡めながら紹介しています。“日本の伝統”がいかに培われ、受け継がれてきたかがよくわかる本です。

『しばわんこの和のころ』シリーズ

川浦良枝／著

月刊誌『MOE』に掲載（最近是不定期に掲載）。日本の年中行事を“和の心”に目覚めた柴犬のしばわんこと、ともだちの三毛猫のみけにゃんが紹介している絵本です。パステル調のふんわり・ほっこりした温かい雰囲気のに癒されながら“和の精神と伝統”を学べる1冊です。

『図解雑学 神道』

井上順孝／著

お正月と言えば初詣。でも「皆が行っているから」と、何となくお参りしている人が多いのでは？この本では日本の創世神話から始まり神社の成り立ちやお参りの作法など、わかっているようで実はよくわかっていなかった神道に関わる事柄を、一項目につき見開き2ページでわかりやすく解説しています。

『豆千代の着物ア・ラ・モード』

福岡伸一ほか／述

皆さんのなかでお正月に着物を着た、という人はいるでしょうか。洋服と比べて、窮屈で動きにくい着物。そんな着物を楽しもう！とアンティーク着物ショップ店主の豆千代さんが着物の楽しみ方とポップ＆カジュアルな着こなし方を豊富な写真とともに紹介。

～ 先生方からみなさんにすすめるこの1冊 ～

第5回は英語科の木戸口先生と保健体育科の大谷先生です。

木戸口肇先生おすすめの1冊

『20歳のときに知っておきたかったこと』 ティナ・シーリング／著

4年前、自分が20歳だったときに読みました。

この本を読んで印象に残ったのが、「固定観念にとらわれるな」ということです。ものの見方や、考え方を少し変えてみるだけで選択肢が大きく広がります。身の周りで起こることは答えが一つではありません。自分の考えを疑ってみてください。「本当にこれでいいのか？」。新しい方向から世界を見ましょう！

ぜひ一度読んでみてください。

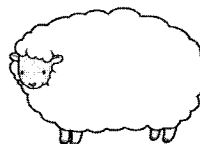
大谷 輔先生おすすめの1冊

『もしも高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』 岩崎夏海／著

私が1番最初にまともに読んだといっても過言ではない本です。大学時代の部活動が学生だけで練習や試合をしている環境だったので、ものすごく勉強になりました。もともとは、「経営学」という私たちにとって難しい話で関係ないように思えますが、この本を読めば、さまざまなことに活かすことが出来ると思います。部活で思うような結果の出ていない人、勉強でうまくいっていない人、青春ものが好きな人など、ぜひ読んでみてください。



ヒツジ



今年の干支のヒツジですが人間との関わりはとても古く、1万年前には地中海沿岸部で野生のヒツジを家畜用に改良して飼育していたようです。

ヒツジからは肉、羊毛が採れるほか、ミルクからはバターやチーズが作られます。更に昔に遡ると角や骨から道具を、脂肪からロウソク、皮からは羊皮紙や楽器（太鼓の皮など）が作られていました。

人間の役に立つように色々と改良されたヒツジは、現在約1000種類もの品種があります。

クイズ 次の偉人は誰でしょう（全員幕末に活躍した人たちです）。© GIHYO



© GIHYO

1830年～1859年
長州藩（現在の山口県）出身。松下村塾で多くの人材を育てる。安政の大獄で処刑。



© GIHYO

1839年～1867年
長州藩出身。左の人物のもとで学ぶ。奇兵隊を創設し、藩を倒幕に方向づけた。



© GIHYO

1815年～1860年
彦根藩（現在の滋賀県）出身。江戸幕府の大老。桜田門外の変で暗殺される。



© GIHYO

1828年～1877年
薩摩藩（現在の鹿児島県）出身。倒幕・明治政府成立の中心人物の一人。